

科目名	構造力学 I						
科目名(英)	Structural Mechanics I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	黒木 文雄		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	設計会社にて 設計担当		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	構造力学を学ぶ目的と構造設計との関連について理解する。また、構造力学の基本である力のつり合いを基に、反力 計算の手順を習得する。さらに、求めた反力を利用して、単純梁に生じる力(軸方向力、せん断力、曲げモーメント)の計算手順を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				力のモーメントが求められる。	
	○	○				力の合成と分解が出来る。	
	○	○				静定構造物の反力が求められる。	
	○	○				静定構造物(単純梁)の応力が求められる。	
テキスト・教材 参考図書	建築構造設計 実教出版、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	構造力学の概要、力の表し方、力のモーメント				予習 復習	
	2	1点に作用する力の合成と分解(図式、算式)				予習 復習	
	3	平行な力の合成(算式)				予習 復習	
	4	平行な力の分解(算式)				予習 復習	
	5	力の釣り合い				予習 復習	
	6	荷重、支点と反力				予習 復習	
	7	単純梁の反力(1)				予習 復習	
	8	単純梁の反力(2)				予習 復習	
	9	片持ち梁の反力				予習 復習	
	10	単純ラーメンの反力				予習 復習	
	11	応力について、応力の求め方、応力図の描き方				予習 復習	
	12	単純梁の応力(集中荷重が作用する場合)				予習 復習	
	13	単純梁の応力(等分布荷重が作用する場合)				予習 復習	
	14	単純梁の応力(モーメント荷重が作用する場合)				予習 復習	
15	まとめ				期末試験対策		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。(4)出席回数 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
	出席回数				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築設計製図 I						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING I						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	隈 道章		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築学科 夜間 1年						
授業概要	本授業では、製図道具の使い方、線の描き方など製図の書き方を習得し、木造建築物の一般図の種類と表現方法・内容理解を目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				製図道具(平行定規、勾配定規、三角スケール、円定規)を問題なく使用できる	
	○	○				木造建築の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。	
	○	○				製図の基本に則して木造建築物の配置図及び平面図を作図することができる。	
	○	○				製図の基本に則して木造建築物の断面図及び立面図を作図することができる。	
○	○				製図の基本に則して木造建築物の矩計図を作図することができる。		
テキスト・教材 参考図書	学芸出版 新しい建築の製図						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	製図の基本(建築を考える)				授業後、繰返しの練習を推奨する。	
	2	製図の基本(スケール)				授業後、繰返しの練習を推奨する。	
	3	製図の基本(点)				授業後、繰返しの練習を推奨する。	
	4	製図の基本(文字)				授業後、繰返しの練習を推奨する。	
	5	図面の表現(図面の描き方)				課題は次の授業までに終わらせること。	
	6	図面の表現(平面図)				課題は次の授業までに終わらせること。	
	7	図面の表現(立面図)				課題は次の授業までに終わらせること。	
	8	図面の表現(展開図)				課題は次の授業までに終わらせること。	
	9	図面の表現(配置図)				課題は次の授業までに終わらせること。	
	10	木造平屋建て「住宅設計図」模写				課題は次の授業までに終わらせること。	
	11	配置図、平面図				課題は次の授業までに終わらせること。	
	12	断面図				課題は次の授業までに終わらせること。	
	13	立面図				課題は次の授業までに終わらせること。	
	14	基礎伏図、床伏図				課題は次の授業までに終わらせること。	
15	小屋伏図				課題は次の授業までに終わらせること。		
評価方法	(1)課題の提出 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (3)出席回数						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題	○	○				50%
	発表・作品	○	○				40%
	出席回数				○		10%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築設計製図Ⅱ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅱ						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	隈 道章		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築学科 夜間 1年						
授業概要	木造2階建て住宅の図面模写 配置図の描き方 平面図の描き方 断面図・立面図の描き方 矩計図の描き方 1階床伏図・2階床伏図・1階小屋伏図の描き方 【住宅のフリープラン】各自で条件にあったフリープランを作成する						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				木造建築の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。	
		○	○			木造2階建て住宅(店舗併用住宅)図面の模写が出来る。	
		○	○			木造2階建て専用住宅の設計製図が出来る。	
テキスト・教材 参考図書	彰国社 定番建築製図入門						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 2	鉄筋コンクリート住宅トレースの説明、平面図の作図				課題は次の授業までに終わらせること。	
	3 4	配置図・平面図(2)の作図				課題は次の授業までに終わらせること。	
	5 6	断面図の作図				課題は次の授業までに終わらせること。	
	7 8	立面図の作図、仕上げ、手直し				進捗状況の報告	
	9 10	木造住宅フリープラン 課題説明、敷地の読み取り方、コンセプト設定				課題は次の授業までに終わらせること。	
	11 - 15	図面作成、エスキース				課題は次の授業までに終わらせること。	
	16 - 18	図面チェック、図面作成				進捗状況の報告	
	19	図面作成、課題提出				課題は次の授業までに終わらせること。	
	20	RC造、課題説明				課題は次の授業までに終わらせること。	
	21 - 27	図面チェック、図面作成				課題文を熟読する	
	28 - 30	図面作成、課題提出				課題は次の授業までに終わらせること。	
	評価方法	(1)課題の提出 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
課題		○	○	○			50%
発表・作品		○	○	○			40%
出席回数					○		10%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築CAD設計製図演習 I						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	黒木 文雄		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	JW-cadの基本操作方法を覚え、木造住宅、鉄筋コンクリート造事務所ビルなどの建築図面が描けるようになる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○	○	○	目標			
	○	○	○	Jw-cadの基本操作(作図コマンド・レイヤー・グループ操作)ができる。			
	○	○	○	木造住宅の配置図、平面図が描ける。			
	○	○	○	鉄筋コンクリート造事務所ビルの平面図、断面図、南・西立面図、配置図が描ける。			
○	○	○	建築CAD検定3級資格試験の問題が時間内にできる。				
○	○	○					
○	○	○					
テキスト・教材 参考図書	初めての建築CAD Windows版JW-CADで学ぶ		学芸出版				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	JWcadの基本操作(1) 概要説明 CAD、JWCADとは			学習したコマンドを使えるようになるまで練習する。		
	2	JWcadの基本操作(2) 起動と終了操作、作図コマンドの説明			学習したコマンドを使えるようになるまで練習する。		
	3	JWcadの基本操作(3) 作図コマンド、レイヤー、グループの説明			学習したコマンドを使えるようになるまで練習する。		
	4	JWcadの基本操作(4) 編集コマンドの説明			学習したコマンドを使えるようになるまで練習する。		
	5	JWcadの基本操作(5) 前回までの復習、その他のコマンド			学習したコマンドを使えるようになるまで練習する。		
	6	JWcadの基本操作(6) テキストの復習問題			練習問題の課題を次回までに終わらせておく。		
	7	作図課題1(木造住宅 配置図の作図(1))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	8	作図課題1(木造住宅 配置図の作図(2))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	9	作図課題1(木造住宅 1階平面図の作図(1))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	10	作図課題1(木造住宅 1階平面図の作図(2))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	11	作図課題1(木造住宅 1階平面図の作図(3))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	12	作図課題1(木造住宅 2階平面図の作図(1))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	13	作図課題1(木造住宅 2階平面図の作図(2))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	14	作図課題1(木造住宅 建物概要)			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	15	作図課題2(RC事務所 1階平面図の作図(1))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	16	作図課題2(RC事務所 1階平面図の作図(2))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	17	作図課題2(RC事務所 2階平面図の作図)			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	18	作図課題2(RC事務所 A-A断面図(1)の作図)			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	19	作図課題2(RC事務所 A-A断面図(2)の作図)			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	20	作図課題2(RC事務所 B-B断面図の作図)			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	21	作図課題3(RC事務所 南立面図の作図(1))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	22	作図課題3(RC事務所 南立面図の作図(2))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	23	作図課題3(RC事務所 西立面図の作図(1))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	24	作図課題3(RC事務所 西立面図の作図(2))			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	25	作図課題3(RC事務所 配置図の作図)			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	26	作図課題3(RC事務所 建物概要の作図)			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	27	建築CAD検定3級問題(1) 概要説明、作図のポイント			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	28	建築CAD検定3級問題(2) 3級問題の作図			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	29	建築CAD検定2級問題(1) 概要説明、作図のポイント			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
	30	建築CAD検定2級問題(2) 2級問題の作図			当日課題については、次回までに終わらせておく。		
評価方法	(1)各課題を期限を定めて提出させ、その出来具合に応じて評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		○	○			80%
	出席回数				○		20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	建築計画 I						
科目名(英)	Architectural planning and design I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	深野木 隆		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築学科(夜間)1年						
授業概要	主に建築計画の基本となる住宅について建築計画の手法を学び、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等も行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				建築計画の目的と役割を説明できる	
	○	○				住様式と住宅の変化について説明できる	
	○	○				戸建て住宅の建築計画を立てることができる	
	○	○				集合住宅の建築計画を立てることができる	
	○	○				自分が立てた建築計画をプレゼンテーションすることができる	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代 参考図書:建築ガイダンス初めて建築を学ぶ人のために、コンパクト建築設計資料集成、「新建築」等の建築雑誌						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己紹介(教員・学生)					
	2	シラバス説明、建築計画とは、住様式と住宅の変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	戸建て住宅 配置計画・平面の種類				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	戸建て住宅 各室の計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	戸建て住宅 各室の計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	戸建て住宅 各室の計画3・規模計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	戸建て住宅の計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	戸建て住宅の計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	中間テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	集合住宅 団地計画				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	集合住宅 集合住宅の種類1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	集合住宅 集合住宅の種類2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	細部計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	細部計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	細部計画3				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	プレゼンテーション		○	○			20%
	宿題・レポート	○	○				10%
履修上の注意	先ずテキストをしっかり読んで予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。						

科目名	建築施工 I						
科目名(英)	Building Construction I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高野 繁		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	講義を通して建築施工の基礎知識の修得を目指す						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				建築施工の目的と概略を説明できる	
	○	○				施工計画の概要と留意事項を説明できる	
	○	○				施工における工事の内容と留意事項を説明できる	
	○	○				施工における必要な検査事項と活用方法を工事の段階ごとに説明できる	
テキスト・教材 参考図書	建築施工 実教出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築施工の目的と特色					
	2	請負業者の決定方法と契約時の注意事項				事前学習	
	3	施工計画 概説と留意事項の解説				事前学習	
	4	地盤調査 地盤調査の種類と調査結果の活用方法				事前学習	
	5	仮設工事 概説				事前学習	
	6	土工事 概説				事前学習	
	7	地業・基礎工事 杭地業と基礎の種類				事前学習	
	8	鉄筋工事 I 材料と各種構造、加工・組立・検査について				事前学習	
	9	鉄筋工事 II 着工前の検査事項、継ぎ手、配筋について				事前学習	
	10	型枠工事 I 各構成部材について				事前学習	
	11	型枠工事 II 施工前の検査事項、加工時・組立時の留意事項				事前学習	
	12	コンクリート工事 I コンクリートの種類、品質、基準強度				事前学習	
	13	コンクリート工事 II 施工管理のポイント				事前学習	
	14	鉄骨工事 I 鉄骨造の特徴、内容と留意点				事前学習	
15	まとめ				期末試験準備		
評価方法	期末試験の結果、出席回数によって評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	期末試験	○	○				80%
	出席回数				○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築法規 I						
科目名(英)	Architecture I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	竹下 幸栄		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	2級建築士資格試験の問題演習を通して、建築法規に関するより専門的な知識習得を目指す。また、学習を通して建築に関する基本的な考え方や建築の在り方についても理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築に関する法令用語の定義を説明することができる。	
	○	○				順守すべき法規事項を説明することができる。	
	○	○				法令順守に沿ったのプランニングができる。	
テキスト・教材 参考図書	・総合資格学院編 建築関係法令集 法令編 ・総合資格学院発行 平成31年度版 2級建築士試験 学科 厳選問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	用語の定義 (①法規の体系、法令の形式②建築基準法の目的、全体構成③法令用語の原則、定義)				事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	2	確認申請・建築手続Ⅰ (①建築物の建築等の確認申請、②仮設建築物の確認申請)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	3	確認申請・建築手続Ⅱ (①建築物の用途変更による確認申請、②工作物の確認申請)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	4	確認申請・建築手続Ⅲ (①構造計算適合性判定制度、②建築物に関する完了検査・中間検査)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	5	面積の算定 (①敷地面積、②建築面積、③延べ面積)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	6	高さ等の算定 (①建築物の高さ、②階高)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	7	一般構造Ⅰ (①居室の採光)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	8	一般構造Ⅱ (①居室の換気、②火気使用室の換気設備)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	9	一般構造Ⅲ (①階段・スロープ、②床高、③天井高さ)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	10	耐火・防火Ⅰ (①耐火・防火等の性能、②耐火建築物等としなければならない特殊建築物)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	11	耐火・防火Ⅱ (①法第27条、②耐火建築物等としなければならない特殊建築物)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	12	防火区画Ⅰ (①面積区画、②たて穴区画)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	13	防火区画Ⅱ (①異種用途区画、②防火区画の構造、③防火壁等)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	14	避難施設Ⅰ (①各種避難施設の設置及び構造)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
15	避難施設Ⅱ (①避難上の安全の検証)				定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (4)出席数						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
	出席数				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	図学 I・建築パース I						
科目名(英)	ARCHITECTURAL PERSPECTIVE I						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	石原達也		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築学科 夜間 1年						
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要である。オーナーの希望を具体化し、絵として表現する事により、より解りやすく表現する方法です。 建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ばせる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○				目標		
	○				建築パースの重要性・必要性を理解出来る。		
	○				パースの成り立ち(遠近法・図法)を説明出来る。		
	○				図面を使って室内のフリーハンドイメージパースを作ることが出来る。		
テキスト・教材 参考図書	超かんたん パースの描き方						
	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
授業計画	1	建築パースの重要性・必要性					
	2	建築パースの重要性・必要性					
	3	内観1消点法・基本・変形					
	4	内観1消点法・基本・変形			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	5	斜め家具の配置					
	6	斜め家具の配置			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	7	ベッドルームの作成					
	8	ベッドルームの作成			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	9	和室のパース作成					
	10	和室のパース作成			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	11	リビングルームの作成					
	12	リビングルームの作成			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	13	外観2消点法・基本					
	14	外観2消点法・基本			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	15	3階建ビルの外観パースを作成					
	16	3階建ビルの外観パースを作成			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	17	2階建ビルのパース					
	18	2階建ビルのパース			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	19	2階建住宅のパースを作成 1					
	20	2階建住宅のパースを作成 1			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	21	2階建住宅のパースを作成 2					
	22	2階建住宅のパースを作成 2			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	23	切妻住宅の外観パースを作成 1					
	24	切妻住宅の外観パースを作成 1			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	25	切妻住宅の外観パースを作成 2					
	26	切妻住宅の外観パースを作成 2			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	27	着色1					
	28	着色1			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	29	着色2					
	30	着色2			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
評価方法	課題作品の提出・受講態度の観点で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	課題・作品	○	◎		○		70%
	受講姿勢・出席				◎		30%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況に関係なく単位を与えない。						